



今回配備されたAED(上)と豊玉支所1階ロビーの設置箇所(矢印のところ)

### AEDの設置場所(9カ所)

- 対馬市役所本庁(本館2階南福祉保健センター)
- 美津島支所(1階住民生活課)
- 豊玉支所(1階ロビー)
- 峰支所(1階ロビー)
- 上県支所(1階北福祉保健センター)
- 上対馬支所(1階住民生活課)

- 対馬市交流センター(1階管理室)
- 巖原港ターミナル(1階発券所)
- 比田勝港ターミナル(1階発券所)

[問い合わせ] 対馬市健康推進課 0920(58)1116

## AED(自動体外式除細動器)を、市役所など公共施設9カ所に設置しました

対馬市では、心臓突然死に対する救命体制の充実を図るため、このたびAED(自動体外式除細動器)を市役所をはじめ、他の公共施設など合計9カ所に設置しました。

AEDとは、心臓に電気ショックを与えて心臓のリズムを正常に戻し、回復させる医療機器です。心停止の多くは心室細動(心臓の筋肉のけいれん)が原因と考えられ、心室細動になると心臓がけいれんし、血液を全身に送り出せなくなり、このような傷病者に対しての応急手当として人工呼吸、心臓マッサージに加えて、AEDの使用が一般市民にも認められました。

救急現場に居合わせた人の速やかな救命処置により、救命率の向上が図られますので、みなさんもこの機会に応急手当の知識を学んでみてはいかがでしょうか？

## 一日救急隊長・指令室長を任命し救急車出場訓練



通信指令室で機器の説明を受ける一日救急隊長・指令室長の2人

救急医療週間(9月6〜12日)に合わせ、救急医療と救急業務に対する住民の理解と知識を深めてもらおうと、対馬市消防本部による救急車出場訓練が9月10日に実施されました。

訓練では、一日救急隊長に(株)新出光巖原支店の村岡準一さん(47)が、一日指令室長には同店の村田和久さん(41)がそれぞれ任命され、交通事故が発生しけが人がでたとの想定で、通報を受けてから救急車出場、患者を対馬いづはら病院へ搬送するまでの一連の行程が、本番さながらの緊張感の中、実施されました。

対馬市消防本部の発表によると、平成18年中、対馬市の救急出場件数は1362件で、一日平均約4件。全搬送人員のうち65歳以上の高齢者の占める割合は54・8%でした。

また、救急車要請から現場到着までの平均所要時間は、約9.6分で、同じく救急車要請から医療機関へ収容するまでの平均所要時間は、約37・5分となっています。

現在、対馬市消防本部には救急救命士20名を含む73名の職員が救急隊員の資格を有しており、救急自動車は7台を保有しています。

今回の研究会では、「一人でも多くの命を救うために」をテーマに掲げ、日頃市内で救急医療に携わる関係者が、対馬の救急医療の現状について発表し意見交換を行いました。

研究会では、出席者が「対馬におけるドクターヘリの現状」や「対馬市の救急搬送の現状」などについて説明。この中で、昨年12月から運用が開始された長崎医療センターのドクターヘリは、従来の自衛隊ヘリと比較し手続きが簡略化されたことにより搬送要請から出勤までにかかる時間が約6分と、大幅に時間短縮が行われていることや、医療

設備が整っていること等で患者の容体の急変にも対応できる反面、夜間飛行ができないことや搬送先が長崎医療センターに限られるなどのマイナスイ面も指摘されました。

また、この4月から島内の住民に対し救命処置の普及活動を行っている対馬一次救命処置(BLS)普及会が活動状況について発表し、現在までに同会が実施した一次救命処置講習に島内の1400名余りが受講したことを報告。しかし、この数は島内人口の4%に満たないことから、さらなる普及を呼びかけました。

## 救急医療の現状について意見交換

平成19年度 対馬救急医療研究会



救急医療週間(9月6日～12日)にちなみ、対馬市医師会、対馬保健所、対馬市消防本部主催による平成19年度対馬救急医療研究会が、9月8日、対馬市交流センターで開催されました。

フギョン

## 釜慶大の学生20名

### ホームステイで対馬を楽しむ



韓国釜山市の釜慶大の学生20名が、8月24日から3日間、対馬でホームステイしました。

同大学によるホームステイは今回で6回目。厳原、美津島の有志でつくる「つしまハッピーステイの会」が受け入れました。

学生たちは2人ずつ10家庭に宿泊して日本の生活文化にふれ、ホストファミリーらと親しい交流を行いました。

滞在中ホストファミリーから対馬各地を案内してもらったという日本語日文学科2年のキム スミさん(19)は、「対馬はいくところすべて自然が美しかったです。ホストファミリーと花火を楽しんだことが一番印象に残っています。きれいな浴衣も着ました。ぜひまた対馬に来たいです」と話し、心から交流を楽しんだ様子でした。

## 漂流漁船の捜索に協力 海上保安本部より表彰

### 対馬無線漁業協同組合対馬漁業用海岸局

5月31日に鹿児島県から沖縄県に向けて出港し、その後行方不明となった漁船「大丸」(乗組員3名)の捜索に協力したとして、9月21日、対馬無線漁業協同組合対馬漁業用海岸局に第十一管区海上保安本部長から感謝状が贈られました。

対馬漁業用海岸局は、燃料切れで漂流中の漁船が発信する途切れ途切れの救難通報を傍受し、その内容を海上保安庁へ情報提供したことで、早期発見と乗組員の救助につながったものです。これにより「大丸」は、捜索開始から3日後の6月4日に無事発見され、乗組員全員が救助されました。

同海岸局は、対馬地区の漁業者に市況や天気予報などの様々な情報を提供するために、5名の職員で交代しながら年中無休、24時間体制で運営されています。

なお、全国には同様の無線局が約600局あるそうです



感謝状を手にする対馬無線漁業協同組合の中島隆三組合長(中央)

## 開設10周年を祝い記念式典を開催 対馬野生生物保護センター

平成9年に開設され、ヤマネコセンターの愛称で親しまれている上県町佐護の対馬野生生物保護センターで9月2日、開設10周年を記念する「ありがとうヤマネコ10周年感謝の集い」が開かれました。

午前10時から開かれた式典では、開会行事に続き同センターの運営や発展、野生生物保護思想の普及等に功労があった2団体と27個人に環境省から感謝状が贈られました。

続いてツシマヤマネコ保護活動の紹介として、同センターの10年間の歩みと、ボランティアでヤマネコの保護活動を行っているツシマヤマネコ応援団、NPO法人どうぶつたちの病院の取り組み等が発表されました。

その後、記念講演としてテレビコマーシャル等でおなじみの生物生態写真家栗林慧さんが「身近な命を撮る」と題し講演。昆虫をクローズアップして撮影するなど特徴のある作品の撮影方法などについて話しました。



功労者表彰の様子



講演する栗林慧さん



## 美津島地区消防団夏期訓練

8月26日、対馬市消防団美津島地区夏期訓練ソフトボール大会が開催されました。

美津島地区消防団の団結と分団相互の連携、親睦を図るために毎年実施されているもので、今年は24分団、358名の団員が参加しました。

雞知中学校グラウンドでの開会式の後、3会場に分かれて試合が行われました。猛暑の中でしたが、消防団員らしくきびきびしたプレーで熱戦が繰り広げられ、美津島第3分団（賀谷）が見事優勝を勝ち取りました。

シリーズ「人権教育総合推進地域事業」の取組 その

## こけ枝の ほんのほの人権



かつら 桂 こけ枝さん

香川県出身の桂こけ枝さんは、生まれつき先天性股関節脱臼という病気のため、右足をひきずりながらの生活を余儀なくされました。子ども頃は、そのこととよくいじめられ、不登校にもなったそうです。しかし、仲の良い友達との会話によって勇気と自信がついて不登校から立ち直ることができました。

講演会は、前半の講演と後半の落語の二部構成となっています。皆様お誘い合わせのうえ、ぜひご来場下さい。

日時 11月24日(土)

開場 午後1時30分

開演 午後2時

会場 対馬市公会堂

入場 無料

や人権の尊さ、健康・福祉などについて、笑いを交えながらわかりやすく話をさせていただきます。

人権講演会開催のお知らせ

11月24日(土)、対馬市公会堂(豊玉町仁位)で、落語家の桂こけ枝さんをお招きして講演会を開催します。